

第51期入学式 式辞

本日は、福山市老人クラブ連合会多田会長、講師代表の先生のご臨席を賜り、福山市老人大学第51期入学式ができますこと、嬉しく存じます。

動画共有サービス「YouTube」の配信をご覧になりながら参加されている学生の皆さん、老人大学第51期ご入学おめでとうございます。私は昨年4月、学長に就任しました飛田洋悟と申します。昨年度は入学式も開催出来ませんでしたので、対面ではありませんが、皆様方にご挨拶をするのは初めてということになります。かつて、私の母も熱心に通っていた老人大学で運営を担当する立場になったことを大変うれしく思っています。

しかし、その一方で、昨年来の厳しい状況に接し、身が引き締まるような思いがしております。精一杯努めて参りますので、どうぞよろしく願います。

さて、ご承知の通り、昨年3月WHO世界保健機関は新型コロナウイルス感染症に対し「パンデミック」を宣言しました。それから1年も経たない本年1月末には世界全体で感染者は1億人を、死者は210万人を超え、ワクチン接種は始まったものの、いまだに感染は続いていますし、我が国におきましても、依然として厳しい状況にあります。

こうした中、昭和48年（1973年）の創立以来、高齢者の生涯学習施設として着実な歩みを続け、「福山市に老人大学在り」と、全国的にも高い評価を頂いてきた私たちの老大は、かつてない厳しい試練の時を迎えています。結局、昨年度第50期は感染防止対策を徹底しながらも、9月から11月までの3か月間、臨時講座という形で各教科3回しか講座を開催することは出来ませんでした。

そして今年度第51期、老大運営の基本的な考え方を私は「新型コロナウイルスの感染が終息していない中では、「新しい生活様式」を踏まえた感染予防対策を徹底して開講する。その上で、出来るだけ多くの高齢者の皆様に生涯学習の機会を提供する」として、準備を進めてまいりました。

当然のことながら、最優先すべきは老大に集う人たちの健康と安全であります。まず密を避ける為に、教室に入る人数や老大に集う1日当たりの

人数を削減することを決定し、募集案内を作成しました。他にも、教室内へのシールドの設置、手洗い石鹸や消毒液など、考えられる限りの感染防止対策を整えてまいりました。

ご承知のように、1月に願書の募集受付を、3月に追加・2教科目募集を行ないましたが、結果、昨年度4月1日時点で2489人であった学生数は、今年度1632人となりました。

このことは、多くの方が今年度は出願を見送ったためと考えられます。それは、募集時期が感染拡大時期と重なり、感染に対する不安が強かったことが主な要因ではないかととらえています。

これまで、例年、延べ約3000人が通って来ていた老大は、コロナ禍の中で2000人を下回り、大きく様相を変えることになりました。このことは寂しく残念なことではありますが、私は皆さま方とともに、これまで以上に活気がある元気な老大になるべく、努力しなければと思っています。

さて、一昨年、私は学長補佐として半年ほど学生の皆さんと接してきました。元気な声であいさつされる姿、熱心に学習に向かわれる姿、和やかに友達と談笑される姿、クラブ活動や学生祭で活躍される姿などから、学生の皆さんにとって老大は大切な無くてはならない存在であると感じてきました。

この思いは、昨年度1年間の休講の中で、益々強く大きくなってきました。私には、校庭や教室のあちらこちらで学生の皆さんの元気な声が聞こえ、明るい優しい笑顔を見ることが出来る老大の日常が、どれ程有難く大切なことであったのか、ということを実際に身にしみて感じさせられることとなりました。

どうでしょうか、みなさんご自身におかれましても、昨年度は老大の講座のことや友達のこと、先生のことなどについて思い出したり、感じたりされたのではないのでしょうか。

このように考えてみますと、新型コロナウイルス感染症は私たちの老大にかつてないほどの試練を与えていますが、一方では、改めて老大の素晴らしさについても教えてくれたように思います。とすれば、私は、学生の皆さん、講師の先生方、事務局が力を合わせ何としてもこの厳しい時を乗

り越えていかななくてはならないと強く思うのです。

私たち一人ひとりが、創立48年目という歴史ある老大の、その伝統を引く次ぐ主役であるという自覚と誇りを持ち、楽しく有意義な老大生活を過ごしていきましょう。そして、2年後には関係者の皆様全員で、創立50周年を力強く迎えましょうと決意を申し述べ、式辞といたします。

2021年（令和3年）4月7日

福山市老人大学 学長 飛田洋悟